

次期「金沢市中央卸売市場 中長期経営戦略」骨子案

1. 計画の概要

(1) 策定の趣旨

- 金沢市中央卸売市場は、昭和41年の開場以来、北陸の中核市場として金沢市はもとより、県内外へも生鮮食料品を安定供給してきた。
- 近年、全国的に、人口減少等に伴う需要の減少や国内生産量の減少、市場外流通の増加などにより、卸売市場の取扱数量は減少傾向にあり、厳しい事業環境に置かれている。
- このような中、国の要請に基づき、平成28年3月に「金沢市中央卸売市場中長期経営戦略」（以下「経営戦略」）を策定し、産地の開拓や販売の強化、市場運営の効率化等に取り組んできた。
- 現経営戦略の計画期間が令和7年度で終了するため、新たに、次期経営戦略を策定する。

(2) 計画期間

令和8年度から令和17年度までの10年間
(中間時の令和12年度を目途に、事業環境の変化等を踏まえ見直しを行う。)

2. 現経営戦略における取組等

(1) 現経営戦略（H28年度～R7年度）の主な取組

- 市場内の物流効率化と省人化に向けた無人搬送車の実証実験 (R6～)
- 集荷力向上のための全国の産地への出荷要請 (毎年度実施)
北海道ホタテ、青森県りんご、兵庫県カンパチ、長崎県馬鈴薯 等
- 鷹の放鳥によるカラス等の防鳥対策 (H29～、約25日/年)
- 場内等照明のLED化による電気料金の節減 (H29～R6で約800台を入替)
- 旬の生鮮食料品の消費拡大や市場の認知度向上のためのテレビ情報番組やSNS等による積極的な情報発信 (毎年度実施) など

(2) 市場事業特別会計の経営状況

(単位：百万円)

		H28決算	R4決算	R5決算	R6決算
当年度純利益	計画	169	141	139	155
	実績	156	51	31	30
企業債残高	計画	2,175	1,107	988	858
	実績	2,163	748	634	554

- ▶ 使用料収入の減少等に伴い、純利益は減となったものの、単年度黒字は確保
- ▶ 設備投資を最小限に抑え、新規借入を抑制したことに伴い、企業債残高は減

3. 事業を取り巻く環境の変化

(1) 取扱数量の減少・取扱金額の増加

本市場の取扱数量は、青果、水産物ともに、流通環境の変化等により減少傾向にある。令和6年度は、能登半島地震や異常気象が大きく影響し、減少している。一方、取扱金額は単価の上昇により、青果、水産物ともに近年増加傾向にある。

本市場	H28年度	R4年度	R5年度	R6年度
青果取扱数量	88,905t	86,682t	83,609t	77,602t
青果取扱金額	262.8億円	251.1億円	257.6億円	274.0億円
水産物取扱数量	50,320t	37,207t	34,940t	32,679t
水産物取扱金額	520.2億円	515.3億円	489.7億円	502.6億円

(2) 流通環境の変化

生産者による直販やインターネット販売など市場外流通の多様化・拡大に伴い、全国の卸売市場経由率は低下してきたが、近年は横這い傾向にある。

全国卸売市場経由率	H28年度	R元年度	R2年度	R3年度
青果	56.7%	53.6%	52.2%	53.9%
水産物	52.0%	46.5%	45.7%	45.6%

出典：農林水産省「令和5年度卸売市場データ集」

(3) 人口減少・少子高齢化の進展

本市においても徐々に人口減少・少子高齢化が進んでいる。今後も人口減少等に伴い、食料消費量の減少が懸念される。

金沢市	H28年	R4年	R5年	R6年	R17年予測
総人口	466,189人	459,916人	457,717人	455,759人	436,074人
高齢化率	25.5%	27.5%	27.7%	28.0%	31.2%

出典：R17予測は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(4) 観光入込客数等の増加

コロナ禍前の水準までに回復し、令和6年も大きく増加している。今後も県内の観光客の増加に伴い、“食”需要の増加が期待できる。

石川県延べ宿泊者数	H28年	R3年	R4年	R5年	R6年
	870万人	445万人	655万人	873万人	1,149万人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

(5) 卸売市場法の改正 (令和2年6月施行)

中央卸売市場への国の関与が薄まるとともに、国一律の取引規制（第三者販売禁止、直荷引き禁止、商物一致等）が大幅に緩和された。

- ▶ 各市場の特性を生かした戦略的取組の推進が求められている。

4. 市場再整備について

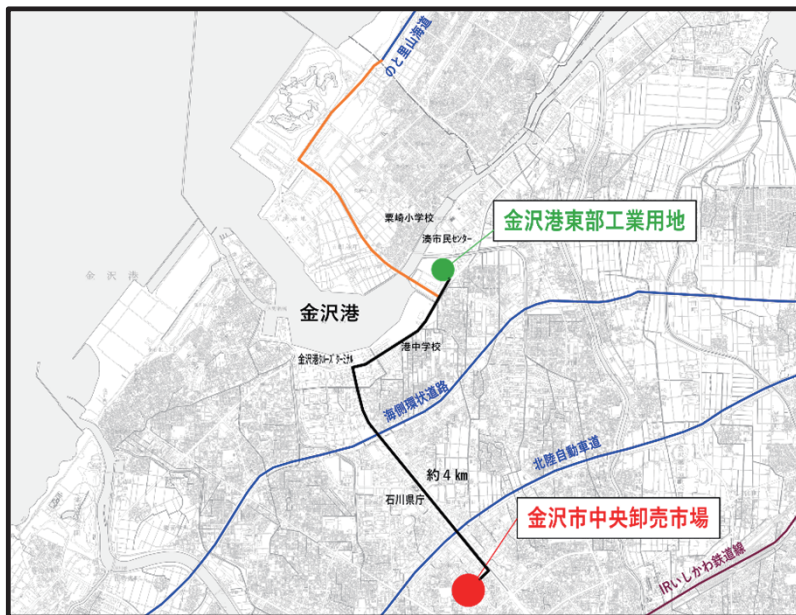
(1) 金沢市中央卸売市場の概要

- 開場年月 昭和41（1966）年7月 ⇒ 59年経過
- 敷地面積 86,116㎡

(2) 再整備の方向性

- 青果棟を現市場外に移転整備する
（場所は金沢市湊3丁目の県所有の金沢港東部工業用地を想定）
- 水産物棟を西念4丁目地内の現在地で建て替える

【現市場と金沢港東部工業用地の位置図】



(3) 目指す姿

- 青果棟、水産物棟が共に、金沢の豊かな食と文化を支え北陸のハブ拠点となるとともに、国内外の産地から豊富な生鮮食料品が集まる魅力ある市場を創る
- それぞれの敷地の特性を踏まえ、市場機能の充実に資する加工等の施設や賑わいを創出する施設などを誘致することで、市場の付加価値をさらに高める

(4) 完成予定時期

青果棟は令和13年度まで、水産物棟は令和17年度までの完成を目指す。

※今後、基本設計の中で具体的な整備内容や整備スケジュール等を固めていく。併せて、基本計画の内容を検証する。

5. 本市場を取り巻く状況の整理

本市場を取巻く状況について、以下のとおり、機会、強み、脅威、弱みの4つに分類する。

外部要因 機会 (+)
① 金沢地域への観光入込客数の増加 （交流人口拡大による“食”需要の増加が期待できる）
② 消費者の食の安全・安心への関心の高まり
③ AI・IoT等DXの利活用の推進
④ 卸売市場法改正による取引規制の緩和
内部要因 強み (+)
① 卸売市場として北陸最大の取扱量
② 公設公営の中央卸売市場としての信用力
③ 市場再整備による市場の付加価値の向上への期待
④ 金沢駅や北陸自動車道、金沢港に近い好立地
⑤ 「加賀野菜」「海幸金沢」など地域に根差したブランド農水産物
外部要因 脅威 (-)
① 人口減少・少子高齢化による食料消費量の減少が懸念
② 生産量や水揚量の減少
③ 市場外流通の多様化・拡大
④ 全国的な人手不足・物流の2024年問題によるドライバー不足
⑤ 能登半島地震による産地等への影響
内部要因 弱み (-)
① 食料消費量の減少や市場外流通の拡大に伴う取扱数量の減少
② 市場施設の老朽化や耐震化への対応
③ 衛生管理や低温管理など品質管理向上への対応
④ 市場会計の単年度利益の減少

次期経営戦略において、機会・強みを生かし、脅威・弱みを克服する施策を推進する。

6. 次期経営戦略の基本的考え方

(1) 経営方針

「北陸のハブ拠点市場として、市場機能の向上を図り、市場の付加価値を高めるとともに、経営効率化を推進することにより、持続可能な市場運営を実現します。」

(2) 将来の取扱数量

令和17年度目標
青果 85,000 t
水産物 35,000 t

人口減少・少子高齢化等に伴い取扱数量の減少が見込まれるものの、県内観光客の増による“食”需要の増加が期待できるほか、市場再整備により、北陸のハブ拠点市場としての機能を向上させるとともに、集荷・販売力の強化等に市と市場関係者が一体で取り組むことで、取扱数量の維持・向上を目指す。

(参考) 令和5年度取扱数量 【青果】83,609 t 【水産物】34,940 t

(3) 基本方針と施策の方向性

基本方針	施策の方向性	主な取組(例)
1. 集荷・販売力の強化	取扱数量の維持・向上に向けて、集荷・販路の拡大を図るとともに、営業力等を強化	<ul style="list-style-type: none">産地への市長トップセールスや商品展示会の開催量販店や中食(弁当・惣菜等)対応の強化本市場の特性を生かした地産地消の推進卸売業者・仲卸業者の経営基盤の強化
2. 流通の効率化と拠点機能の強化	立地の優位性を生かし、広域をカバーする流通機能を強化するとともに、保管・加工を効率的に行うための環境を整備	<ul style="list-style-type: none">加工・パッキング、低温保管設備等の充実多様な輸配送に対応した物流効率化の推進AGV等による場内物流自動化の検討・推進集荷の共同化など市場間連携の推進
3. 品質・衛生管理の高度化	品質・衛生管理の高度化に向けた環境を整備するとともに、安全・安心な生鮮食品を安定供給するための施設・設備を整備	<ul style="list-style-type: none">HACCP(ハサップ)に沿った衛生管理の徹底閉鎖型施設等の整備による低温管理機能の強化衛生検査機関等との連携による食品検査の充実
4. 効率的・効果的な市場運営の推進	安定した市場運営のため、市場事業者の人材確保・定着を支援するとともに、収入確保や経費節減等を図るなど経営効率化を推進	<ul style="list-style-type: none">DXの導入による市場事業者の業務負担の軽減市場事業者の人材確保に向けたインターンシップ等の実施市場敷地等の利活用による収入の確保持続可能な市場運営に向けた経営効率化策の検討・推進(省エネ設備の導入、業務の共同化等)
5. 食文化の発信と魅力ある市場づくり	中央卸売市場を通して、金沢の食文化を発信するとともに、市民に親しまれる魅力ある市場づくりを推進	<ul style="list-style-type: none">市場の機能や役割への理解を深める取組の推進金沢の食文化を発信する賑わい機能の導入検討市民向け体験イベント等の開催市場の食材を用いた食育の実践(出前講座等)

※本骨子案に対するパブリックコメントでの意見や市場事業者等で構成する「金沢市中央卸売市場取引業務運営協議会」の議論のほか、市場再整備基本設計の進捗等を踏まえ、今後、計画期間の令和17年度までの具体の取組や財政計画を設定する。